

北海道浮魚ニュース

令和元（2019）年度 17号

2019年8月30日

道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第1回太平洋スルメイカ中短期漁況予報発表される

8月30日、漁業情報サービスセンターより、第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした2019年9月の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、漁業情報サービスセンターがとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部 (<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>)

今後の見通し（2019年9月）

対象魚種：スルメイカ

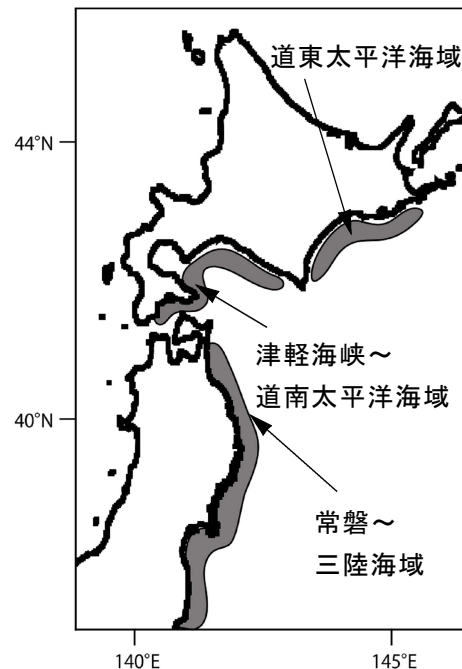
対象海域：太平洋（常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域）

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2019年級群）

- ・道東太平洋（いか釣り、底びき網）：来遊量は前年並。漁場形成は散発的となる。
- ・津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。
- ・常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）：来遊量は前年を上回る。対象期間を通じて漁場となる。

※文中の「前年」は2018年のことです。



・漁況は、2019年7月25日に発表された第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報（浮魚ニュース第10号参照）、及び、その後の各地の漁況経過、調査結果等から予測されました。

・道南太平洋海域については、第1回漁場一斉調査でのCPUEは前年並に少ないことと、6月～8月中旬の漁況から、来遊量は前年を下回ったと考えられました。また親潮第一分枝は前年よりも強いと予測されており、前年よりも太平洋沿岸を北上する群が加入しにくい海況となっていることから、9月の来遊量は前年を下回ると予測されました。

・道東太平洋海域については、7月に三陸～道東沖合域で実施された表層トロール調査の結果では花咲港南沖で漁獲があったことと、道東沿岸域の水温は前年よりも低くなるものの、北上暖水が色丹島南沖へ波及すると予測されていることから、沖合域を北上する群の加入が継続すると考えられます。しかし、8月中旬までのいか釣りの漁況は前年並であることと、第1回漁場一斉調査における沖合域のCPUEは前年並であったことから、9月の来遊量は前年並で、魚群の分布に偏りがあるため、漁場は散発的に形成されると予測されました。

（函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）